

ベーター麻機を目指して

「地域社会に貢献したい」「人とのつながりを大切にして生きていきたい」「自然と共存したい」「自分の手で作物を育ててみたい」・・・
「生きる目的を明確に持ち、真の幸せを子供たちに残したい」

障がい、健全に関わらず、誰もが心に持っている願い。

障がいを持つ方々の純粹さから、今、私たちが見失った
「暖かい人間性」「生きる目的」「本当の幸せ」を取り戻し、
障がいを持つ人との協働・共生を図ることで、人間力の維持・強化を図って真の安心を提供することを目的とする。



ドイツ ベーター



麻機遊水地第4工区



ベーターと麻機

ベーターはドイツ・ビーレフェルト市(人口34万人)にあり、その施設やシステムはベルリンをはじめドイツ国内を中心に広がっている。ベーターには各種病院や老人ホーム、特別支援学校などがあり、約1万4000人の医療従事者がいる。医療と福祉が機能的に行われており、障害者も老人もさまざまな仕事(約2500職種)に就くことで、生き甲斐をもち充実した暮らしを送っている。

麻機は、「地方独立行政法人静岡県立病院機構(元静岡県立こども病院)」、「独立行政法人国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター」という全国でも屈指の専門病院と静岡県立北特別支援学校、静岡県立中央支援学校という静岡県の障がい者教育の中枢を持ち、それ以外にも、保育園、幼稚園、小学校、中学校等の一般教育施設と高齢化を迎える住宅地域、そして、静岡市の物品の流通の要「静岡市流通センター」を擁している。

また、麻機遊水池という環境省の推進する自然再生事業実施計画地によって、市街地と隔絶される地域である。故に麻機において、『医療・福祉・地域・環境』を機能的に実践することにより、これからの低成長高齢化社会への静岡の提言として発信をすることが可能となる。



ベーテル麻機の目指すもの

障害のある人が障害のない人と同様、その能力と適性に応じた雇用の場に就き、地域で自立した生活を送ることができるような社会の実現を目指し、障害のある人の雇用と生活の充実を総合的に推進する。



障がい者

- † 障がい者の真実・・・なぜ 弱者なのか
- † 障がい者の能力の周知
- † 障がい者との協働の可能性
- † 実践・実証から雇用機会の拡大

医療・教育機関

- † 本職からの直接的実践体験
- † リハビリ・就労支援施設の欠如
- † 心にゆとりをもたらすリクリレーション
- † ドクターの安息休憩場所

地域・高齢化社会

- † 麻機遊水池の自然再生
- † 里山の荒廃・竹林問題放棄農耕地の増加
- † 子どもの自然体験現象
- † 地域住民の高齢化・孤独化の増加

協働・創造・繁栄

流通機関

- † 労働力不足
- † 若年者・障がい者就労支援、社会貢献
- † 消費者の確保・増加
- † 情報発信・未来型商店街の形成

